

令和4年度

上八万中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の創造
- GIGA スクール構想の実現に向けた取組
- 将来をえがく力を身につけさせるためのキャリア教育の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 小山 直人	委員	校長 三好 敏史	2年主任 岩根 初絵
	教務主任 1年主任	教頭 大井 育代	3年主任 近藤千恵子
		濱井 洋典	数学主任 近藤千恵子
		前田 貴美	国語主任 森 幸恵

校長

三好 敏史

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、アンケート等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にまじめに取り組める生徒が多い。 ●基礎的・基本的な知識・技能を関連付けて課題解決をすることに課題がある。	・習得した知識・技能が既習の知識と関連付けられ、他の学習や生活の場においても活用することができる。	・知識・技能を活用する必然性のある場面を設定する。 ・授業(単元)のめあての確認と学びの振り返りをする。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることができる生徒が多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題があり、半数以上の生徒が発表することが苦手と考えている。	・様々な知識と経験をもとに、課題に応じた解決方法を選択し、自分の考えを表現することができる。	・多様な意見や考えが生まれるような学習課題を設定する。 ・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定し、学び合う集団をつくる。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・教科横断的な取組をマネジメントする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に真面目に取り組むことができる。また、家庭学習でも与えられた課題に真面目に取り組むことができる生徒が多い。 ●不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服をすることに課題がある。	・各教科の学習に見通しを持ち、粘り強く取り組むことができる。 ・有効な場面を考え、タブレットをツールとして活用することができる。 ・今の学びを社会や人生と結びつけ、学ぶことの意味を考えている。	・何を・なぜ・どのように学ぶのかを自覚させると共に、思考の視点を示す。 ・個人端末を活用し、多様な方法で、多様な人と協働しながら学びを深める。 ・体験的な活動や外部講師の招聘により、キャリア教育を充実する。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

